

落ち着きを取り戻しつつある市場、来週の統計内容に注目

本土市場

～不安感が一服したことで、買戻しが優勢に～

先週に大きく調整した本土市場だが、今週は買い戻され、上海総合指数は3300ポイントを回復した。利食い売りの背景となっていた銀行の増資観測、ドバイ情勢への警戒感などが後退したためだ。3300ポイント付近での上値の重さは見られるものの、市場はひとまず落ち着きを取り戻したもようだ。

一方、豊富な資金流動性を背景に、商いは高水準を維持。3日連続で3000億元を上回るなど、買い意欲は引き続き強い。

香港市場

～先週末の下げ幅は回復～

香港市場も本土に追随するかたちで反発し、先週末に記録したドバイショックなどによる今年最大の下げ幅を回復。ハンセン指数は3日時点で4連騰となり、2万2000ポイント台半ばまで戻した。

リスクマネーの動きが再び活発になってきたなか、売買代金も引き続き高水準を維持。700億HKドルを超える日が続いている。

増資懸念、ドバイショックの影響が後退したことで、買戻しの動きが拡大

本土、香港両市場の地合いについて、背景として主に以下の点が挙げられよう。

- ◆調整の一因となった需給関係の悪化懸念が後退したことで、地合いは改善した。国有株主の中央匯金投資有限責任会社が4大国有銀行の財務強化に協力する姿勢を示したとメディアが報道したことで、市場の重しとなっていた銀行の増資観測が後退。市場心理にプラスに働いた。
- ◆ドバイショックの世界経済への影響は限定的との見方が広がり、投資家は落ち着きを取り戻したもよう。政府系シンクタンクが来年のGDP成長率の見通しを8.5%とするなど、堅調な経済成長を続ける中国を評価するかたちで、国内外からリスクマネーが戻ってきたようだ。さらに適格本土機関投資家(QDII)の投資拡大を見込んで、香港市場の需給面での不安感も後退し、地合いを良くした。
- ◆政策面でも中国共産党の中央政治局が「積極的な財政、適度に緩和された金融」という方針の継続を強調。自動車、家電などの内需拡大策や、業界、地域ごとの振興策などの具体案も出てきており、これに反応するかたちで関連する銘柄が買われた。
- ◆落ち着きを取り戻したものの、米国株式市場や国際商品市況などは一進一退の展開となっており、不安感も完全には消えていない。上げたところでの戻り売りも多い。

来週のポイント
～主要統計の発表を控える市場、良好な環境は変わらず～

本土・香港市場ともに、先週の大幅調整による下落分は概ね取り戻した。過熱気味の市場を一旦冷やした格好となり、来週以降の下値固め、上値追いの動きにとっても、プラスに働こう。

各国が金融緩和を強めるなか、リスクマネーが引き続き本土・香港市場に向かう可能性は高く、豊富な資金流動性は変わらないといえよう。機関投資家からの新たな資金流入も期待でき、良好な市場環境は続くと思われる。

11日に発表予定の本土の11月の主要統計、並びに開催が近いとされる中央経済工作会議などをめぐる憶測に、来週の市場は左右される可能性も。ただ、昨年11月は金融危機の最中だったこともあり、統計は景気の急回復を示すものとなりそう。これを受け、バブル・インフレ防止を目的とした政策の微調整があっても、市場へのマイナス影響は限定的となろう。

8月の調整以降、上海総合指数、ハンセン指数ともに、月の前半に上昇、後半に調整という動きを毎月繰り返している。ただ、その度に上値・下値ともに切り上がっている。今後は年末を控えたポジション調整の売りが予想されるものの、両市場ともに回復トレンドに大きな変化はないと思われる。

注目ニュース

- ◆マクロ
 - ・12月1日：商務部の幹部が今年の小売総額が前年比15.6%増の12兆元規模に達する見込みと発言。あわせて関係部門と更なる消費拡大に向けた施策を検討中であり、自

自動車や家電向けの販売促進策も適用範囲の拡大余地があるとした（内需主導の経済成長は当局にとって重要課題であり、今後も政策的な支援は続くだろう）。

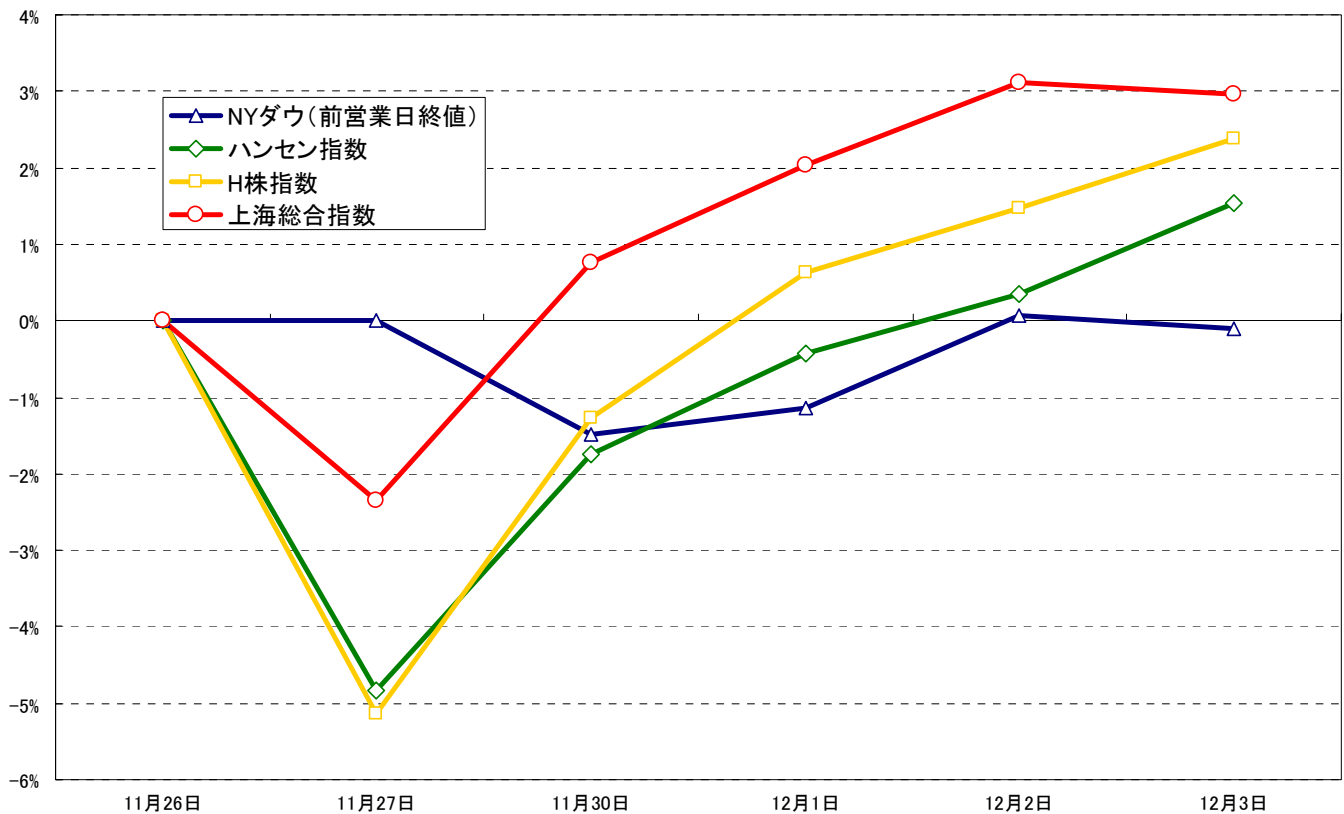
◆国内市場

- ・12月1日：中国証券登記結算有限責任公司によると、先週のA株新規口座開設数は45万1100件に上り、前週に比べ約25%増、8月第3週以来の高水準となった（株式保有口座数も3週連続で増加し、5000万件を突破）。
- ・12月2日：11月の大口取引システムでの取引量が7億4200万株、金額で87億3000万元に達し、いずれも今年最も高い水準となった（上場企業による株式売却も前月に比べ8割も急増し、そのうち大口取引システムでの売却は6割を占める）。

◆産業・個別企業

- ・12月2日：上海証券報によると過剰な生産能力の問題を解決するために、政府は関連部局を横断する専門チームを立ち上げ、老朽化した生産設備の淘汰・整理に本腰を入れるという（対象となる産業は電力、石炭、鉄鋼、非鉄金属、セメント、製紙など。ただ、過当競争の緩和につながり、大手企業にとってはプラスに働く可能性も）。

各指数の動き



出所：ブルームバーグのデータより内藤証券作成

参考銘柄の動き

	コード	11月26日終値	12月3日終値	騰落率(%)
上海総合指数		3,170.98	3,264.63	+3.0
ハンセン指数		22,210.41	22,553.87	+1.5
H株指数		13,146.28	13,459.06	+2.4
瀋機集団昆明機床	00300	6.97	7.10	+1.9
ミスター康	00322	19.06	19.98	+4.8
上海実業	00363	39.05	43.00	+10.1
★中国通信服務	00552	4.06	4.11	+1.2
中興通迅	00763	44.25	43.85	-0.9
※光宇国際	01043	12.48	13.00	+4.2
★神華能源	01088	38.60	38.55	-0.1
中国工商銀行	01398	6.61	6.75	+2.1
中国南車	01766	5.15	5.59	+8.5
中国人寿保険	02628	39.95	39.95	+0.0
金山軟件	03888	7.04	5.80	-17.6
※山東威高集団医用高分子薬品	08199	26.70	28.50	+6.7

★12月より参考銘柄に採用、 ※12月より参考銘柄から除外

出所：ブルームバーグのデータより内藤証券作成

